滿洲日報

●外人の觀たる肅親王と蒙古

蒙古巡遊を了へて歸還せる肅親王と語れる人々は傳へて曰く親王は思ふ所ありてか露人の權力下に在る市村には立寄らさりき親王の所見清國に取り唯一の危險なる對手國は露西亞なりとし露西亞は戰敗を蒙りたるも其勢力は蒙古殊に北蒙古に於ては曾たに減退せさるのみならす在住官憲の巧妙なる政策に因り却て增大せる地方あり清國化せる內蒙古と一部のアラシャン人を除き他の蒙古人は日露戰爭に就て何等確たる事を知らさるのみならす戰爭か全清國民に重大なる關係を有することを聞たる事なし最も清國化せる蒙古人の一部例之チャハール人の如きは露人に就て知れる所は單に風評に依るに過ぎさるも今日尙露人を以て極めて强大國民となせり

清國人は蒙古に於ける露西亞の勢力に抗せんとし露人の慣用する蒙古人の財囊吸收策は即ち之なりとて一部露國商人の缺點を蒙古人の目に擧示し努めて露人の信用を害せんとせり然るに露官吏は嚴重に露臣民の蒙古に於ける奸計を追縱するの方法を取りしか爲め清國官吏の露國當局を傷けんとせる有らゆる試みは成効せさりき

滿洲朝は忽必烈汗の子孫たるギンギシートと姻戚の關柄なるか故清國人は蒙古王の屬民なりとせる蒙古人の口碑的嫉妬を賤視あるを了解し清國政治家は蒙古に於ける露國の勢力を排除するには之に換ふるの他の國民の勢力を以てし此兩勢力の抗爭の間に清國人は自國の政權を强固にし最後に自力を以て蒙古を防禦せんと考へつつあり肅親王は之に日本人の最も適當なりと認めたり親王は團匪騷亂に際し日本人か親王の不動產と動產を掠奪兵より防止し得たるを以て日本人と密接なる關係を生せるなり肅親王は血緣を以ては蒙古人に關係近きも遂に清國化し眼中清國の發達と繁榮とに深き關係ある自己一族の利害あるのみ

肅親王は清國の復興に於て立役者たらんとを望む親王中の一人なり蒙古人と日本人とを近接せしむる第一計畫は宗教的根底を以てなされたり併しなから蒙古に行はるゝラマ教は衰退せる日本の佛教と甚しき懸隔あるか故に此手段は慨して失敗し蒙古に派遣せられたる日本布教師は蒙古僧侶の間に蒙古の宗教權か日本布教師の爲めに掌握せられ蒙古より得つゝある重なる收入はラマ僧の手より奪はるるに至らさるかの恐怖を惹起せり第二計畫として日本は蒙古に於て家畜其他の軍需品と變易的に何の用を爲さざる舊兵器を賣附けたり之か賣附けの爲めに清國人は何等の差支を認めさりき然るに其不用兵器中には多くの良兵器を混せるを以て蒙古に對する斯かる日本の勢力扶植法には清國人自身も不快の感を起したりき蒙古人の日本人の手に依つて武裝せしひるの如何に危險なる事かは清人か數百年間懸隔なる蒙古種族を平穩的の牧畜の馴致せんと力めたるを考ふ可きなり

然れ共今日迄蒙古には軍事的編制あり即ち諸旗兵將校コンシン大佐パラノフ大尉其他の者の調査に依れは件蒙古王國は「古法」に依り清國政府の要求あり次第槍及弓を以て武裝せる騎兵若干數を出さざる可らす蒙古騎士の性質は甚た我哥薩克に近似し王國に於ける募兵は隸屬侯國に於て平均に人口に割當つるありハルハに於ては他の等級より異なれる世襲士族あり軍隊は其目的を以て選定せられたるタイヅチ(成思汗の子孫)の臣下(定數百人)までの增殖の餘りを以て編成す　(未完)

●ウヰツテの建策

露國現內閣交迭してウヰツテ伯出てゝストルイピン氏に代るべしとの風說過般外電に依りて傳へられしが近着露國新聞の傳ふる所に依るにウヰツテ伯昨年十二月初旬露帝は即ち之なりとて一部露國商人の缺點を蒙に時勢に關する一編の建議書を捧呈して該建議書ファールスコエ、セローの宮殿に於て內閣更迭說起りたるものゝ由、ウヰツテ伯出て今日尙ほ有力なるを主張し着々論證を擧げて今日露國を救ふもの議院制度の外に其策なく議院制度は人民の政府に對する信用を回復し帝國を安固にするを得べしと說き且つ曰く議院制度は能く我國の海外に於て失墜に瀕したる信用を維持するを得べし我國の信用の今日の如き狀態にては國家の破滅を招くの恐あり文明各國の我に對して親交を缺くと國內の爭亂紛擾止まらさるに於ては極東に恐るべき椿事起らんも知るべからす速に內政に斷乎たる手段を施し一大外債を募るに非すんば此紛擾は決して鎭靜するの見込なく新なる戰爭を釀すに至るも知るべからすと

次にウヰツテ伯は輓近官僚制度の實地に現はれたる弊害を列擧し箇々の高官の專橫放恣を痛擊し爲めに官僚社界に一大恐慌を惹起したりと云ふ是れウイツテ伯再出の風說傳はりたる原因なるべし

●船暈の原理と救治法

久保福岡醫科大學教授談

耳鼻咽喉科學研究の爲め歐洲に留學すること三ケ年餘、其間彼地に於ける新なる學說に就き研究を重ね此程歸朝せる福岡醫科大學教授醫學士久保猪之吉氏は東京醫學會に於て「聽神經と眼球運動との關係」といふ題にて留學中に得たる新材料を講和し其實驗を示せり即ち人体感覺の作用は從來五官(味官、視官、嗅官、聽官、觸官)の司る處なりとの定說も輓近進步の醫說に打破せられて尙ほ他の一官即ち身体の調子をとる靜動官を加へ六官の作用を確定するに至りし事、靜動官の刺戟中回轉法電氣刺戟法等の外溫度的刺戟法の興味ある事幷に船暈と靜動官との關係等に付き縷縷研究談を試みたり今其の大要を左に揭げん

▲船暈の原因　船酔病又は船暈といふ事は以前より大家の研究に上つて居るがまだ船に酔はぬ良法に就き發見の効を收めたものはなく現に歐羅巴でも醫界の問題になつて居る程ですが從來胃の弱い人は船暈に胃され易いと云ふ說もありまして、素人などは全く之れを信して居たものもあつたやうですまたに今日私共の研究によると胃つ直接關係のある事は全く誤解で却つて夫れとは方が違ひの耳から起る事を發見しました尤も船に酔つた人は嘔吐を來して胃痛を覺えるのが例であるが夫れよりも先きに頭腦に一種不快なる感を覺え、次第に嘔吐を催すので胃の關係は全く續發性のものであります

▲船暈の主因　が耳と關係ある證據には生來の聾者なら決して船に酔ふ事はありません又私の歸國する時船に乘合した西班牙人夫婦が一歲未滿の嬰兒を連れて居ましたが雨親は早くも船に酔つて仕舞ひ母親は嬰兒の介抱も出來ず却つて同乘者の厄介になつた樣な始末でしたが嬰兒は一向平氣ニコニコ笑つたりして少しも酔ひませんでした其內にピスケイ灣へかゝると船は益す動搖したが矢張り此嬰兒は更に酔はなかつた夫れから同じ乘客の中に英吉利人の小兒で滿二歲半位のか二人居ました同じ年齡でも一人の兒は口も達者に言へるし擧動か一体に早成て居たかも一人の小兒は稼に口も利かす性質は晩成であつた此二人の樣子を見るに早成た方の小兒は船暈に苦しんたか性質の晩成であつた小兒は少しも船暈を感しませんでしたが此の解釋を下しますと聾者は既に耳の機能を缺いて居るから

▲船暈を感する神經　全く無能になつて居る夫れ故船には決して酔はぬのです又西班牙人の連れて居た嬰兒の如く一歲未滿の年齡では耳を調べて見ても充分發育して居りませんから故に不充分な發育では神經も從つて鈍いから船暈を感ずに平氣で居られるのも尤もです夫れから英國の二兒は早成だ方か酔つて晩成の小兒は酔はないと云ふのも詰り早成たのは神經か鋭敏であるから耳の神經も同しく鋭敏である之れに反して晩成の方の小兒は一方の小兒と比較するとまだ夫れ程神經か鋭敏になつて居ない耳の神經も矢張り其の通りであるから早成た兒は酔つても晩成の兒は酔はなゝつたのであります

社告

本社は曩きに遼陽奉天其他各樞要地に支局を設置し通信報道の迅速を期し候處今回更らに讀者諸君の便宜を計り左記の出張所及ひ取次所を開設致し候間購讀及び廣告御申込等の御用は凡て該出張所取次店へ御下命被下度候

奉天十間房第五十號
(平尾商店隣)
滿洲日報
奉天支局出張所

公主嶺支那町
滿洲日報取次所
日盛洋行

支局移轉

本社遼陽支局今回都合に據り左の所へ移轉致候間新聞、廣告、通信其他の御用は凡て左記へ御申込被下度候

遼陽城內西街
(城門より約廿間西側)
滿洲日報遼陽支局

資本金貳千四百萬圓
金壹千參百七拾萬圓
積立

本支店出張所
橫濱　神戶　東京　長崎　大阪
倫敦　里昂　紐育　桑港　布哇
孟買　香港　上海　漢口　天津
北京　大連　旅順　奉天　遼遼
芝罘　鐵嶺　安東縣
(電話十番支配人室)(百八番事務室)

橫濱正金銀行
牛莊支店

營口元神廟街二八六
本店
電話　支配人室　三四一
事務室　二一〇
正隆銀行
總經理人　深水十八

隆記洋行
西營口老龍閣東小紅樓
西南側
西分店
電話　四二

冬季雜題

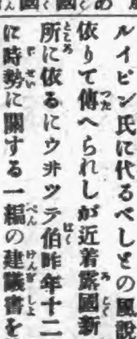
大寒餌あさる雀うたれけり　半百
消炭のわか俳趣味や冬ごもり　稻波
母の爲め講談を讀む火燵かな　小僧
俗にそまぬ頭巾の色や茶三嶺
御紋入れて頭巾に戀の重さ哉　千壽
誰妻か味噌漉さけて頭巾かな　頑白
水仙や開かんとして今日も有　木嬰
水仙の地塘に寒きかをりかな
知慧の輪を出抜て越よ年の坂　柳泉
舟よりも馬面白き雪見かな　仙橋
氣のものしてやらまづし顏汁　奇山
大德の火桶いつくしみ在し鳧　野梅

▲春初冬末の新題俳句を募る

當世紳士氣質

楓葉山人

(六十三)



さんざ話合つた末、とう〳〵二百兩の金をそつくり卷上げられて、絹川は我が部屋へと歸つた、すると、夫人はにこ〳〵笑つて居て。

「何うしました」

と聞く、絹川は我は顏に。

「うまくなけさせて來ましたよ」

と答へる、夫人は、可笑さも可笑、又癪にも障るが、それとは云へぬので。

「然うですか、二百兩にですか」

「えゝ」

「百兩ぐらゐに爲ませんでしたか」

「私も然う思つたですがね、奴、なか〳〵只の鼠でないので安くは動きません」

「然うでせうかねえ」

何方がたゞの鼠で無いか知れぬ、と夫人は思ひながら。

「惡う云ふ事になると妾も心配になつて、來ましたから、思ひ切つて明日は東京へ歸らうと思ひますよ」

「なあに、あれさへ握らして置けば大丈夫でさあ」

と云ふのは、まだ〳〵夫人は滯在すると見込んで、絹川は一文も取つては置かぬからである、露骨に云へば、夫人は一日も早く歸つた方が、可いのであるが……。

「いゝでせうか、何うも氣になつて、折角居ても、これじやあなんにもなりませんよ明日は歸りませうよ」

夫人は最う餘程嫌氣がさして、來たものと見ゑる、話よりはそのそぶりで、流石に絹川はハテナと氣付いた。

「だつて、又と云つたつて最うなか〳〵お出は出來ますまい、私だつて一寸は歸れませんから、まあ最う二三日遊んで行つて下さいな」

と腹を引いて見る。

「ゐゝ、てすけれども、何しろ口實が善光寺詣りですからね、あんまり永くなつちやあ可怪しうございますもの」

それは初めから解つた話てある、かの新聞社員との關係では無い、それをこの方に聞いて來るのは、夫人の心が……これはいよ〳〵怪しいと絹川は思つて。

「それは然うですけれども……貴女が不意に歸るなんと有仰ると私は……」

「私は何うするんてす」

「私は心配になりますもの」

「心配に、何故？」

「何故つたつて、先刻まて、まだ歸る話なんぞは無かつた方が、今急にそんな事を有仰るんてすもの……」

「それは、新聞記者に喋きつけられたからてさアね」

「だつて、貴女がお嫌りになる位なら、二百圓の金も、やらなくつても可いやうなものてす」

「そんな事があるもんてすか、妾が東京へ歸つたつて、やつぱり此事を新聞に出されちやア困るわ」

「それは然うてすけれども……」

と考へて。

「それじやア、明日東京へ御一緒にせう」

「東京へ一緒に……そりやア是非妾の方から願ひたいんてすが、こんなお婆さんと相乘汽車て行かれますか」

「また、何も然う厭味を云は無いつたつて可いじやアありませんか」

「何せう妾ア厭味な女てすもの」

「あれた……あゝ云へば惡く來る、何うも困るなア……何んにしても東京へ一緒に參りませう……明日一番てすか」

「ほんとに、ほんとに、貴郎は東京に行きますか、さうして、東京から直ぐ此方へ又歸るんてすか」

「イヤ、歸つても、歸らなくても、可いてす」

「それじやア、これから東京へ行つて又東京住居になつても可いんてすか」

立聞した事は、慥にそれと知れたのならば、未だ、東京へ一緒に歸るゝ云ふのなら、いゝ、百圓に直切つた事も、自分の前て打明けるし、夫ては……と素や惚れぬいた男た、東京へ一緒に歸るゝ云ふのなら、いゝ、百圓に直切つた事も、自分の前て打明けるし、夫ては……と素や惚れぬいた男た、東京へ一緒に歸るゝ云ふのならば、未だ

倫敦電報

●凶漢は私生兒（卅日發電）ホイツトレー氏の殺害者レーナーは私生兒にして父は果して誰なるや明ならず、警察側に於て確信する所に據れは彼れはホイツトレー氏を恐迫して金錢を奪はんとせしものなりといふ

●清國公使の演說（仝上）英國印度永官チャーレス、コツプハウス氏の司會にて此度新設されたる支那協會の集會ありしか著名なる人士の出席至つて多かりし、清國公使は演說して曰く清國に於る封建制度は英國のそれに相類し三千年以前より存在せり立憲政治の傳說も亦古昔に於て既に其萌芽を發生せり、故に清國皇帝陛下は先ず其の明を以て此度弊政改革の詔勅を發せられたり英清兩國の國際關係は益す親善ならむことを切望すと、而してブレナン氏は其譯文を朗讀せりと

●清國と歐洲文明（仝上）前北京駐劄英國公使サー、サトウ氏はケンブリツヂ大學に於て演說して曰く清國人は歐州文明の精神的方面を要求せす故に外國宣敎師等か內治の事に容喙するは彼等の喜はさる所にして彼の虐殺事件の如き多くは宣敎師自身の招く所なりと

●日本人問題（卅一日發）米國と大統領と日本人問題　米國大統領ルーズベルト氏はルート、メトカーフ等の內閣員と共に加州撰出の議員を會し加州に於ける日本人問題を討議せり散會後加州議員に該問題の滿足に解決するを確信する旨を語れり、猶桑港敎育局長及ひ學校監督に打電して大統領及ひルート氏に打合せの爲め華盛頓に出頭すへき事を命せり

●甫氏の遺言（仝上）凶漢の毒手に斃れたるホイツトレー氏は數百万金を投して貧民の爲めに慈惠院を設立すへき事を遺言せり本日仝氏の葬式ありしか、數萬の貧民會葬せり

●總督辭職聽許（仝上）クローブ新聞の報する所によれはジヤマイカ總督スウエツテンハム氏の辭職は許可されたりと

東京電報

●總督叙勳（卅一日發）臺灣總督佐久間左馬太子は戰後の功に據り旭日桐花大綬章及ひ金二千五百圓を賜はる

●學習院長兼任（仝上）乃明治四十年度以降既定繼續費總額千五百五十二万八千九百五圓三十八錢八厘にして同年度に於て新に要求に係る繼續事業費及既定繼續費增加額合計五億三千六百三十三万八千四百八十七圓十三錢六厘を加ふるときは總計六億五千八十六万七千三百九十二圓五十一錢四厘となる其事業の主なるものは內務省所管に於て河川改良費四千九百二十七万七千六十六圓、大藏省管所に於て神戶稅關海陸運輸聯絡設備費千三百十三万九千四百七圓、煙草製造專賣創業建築費千三百十九万三千八百五十四圓、陸軍省に於ては第一期軍備充實及二年現役實施並に第十三乃至第十六師團の爲め內地に於ける兵營廳舍等の營繕及初年度備附等に要する諸費一億千四十九万九千八百四十一圓及復舊費五千百八十九万四千七百十八圓、海軍省に於て臨時事件費即ち艦艇補足費、造船造兵及修理費建築費一億七千五百万圓、補充艦艇費七千六百五十七万七千百二圓、農商務省所管に於て日本大博覽會費千万圓、逓信省に於て電話交換擴張費二千万圓等なり而して右繼續年限は河川改良費を最後として明治五十四年度に終るものとす尙は文部省所管の各學校費及逓信省の鐵道費は四十年度より特別會計に移すへきにより既定繼續費中より控除したり

▲露人の震古經營　前日庫倫辦事大臣は北京政府に打電して曰く露國は近頃商務大臣を派して伊羅古司卡及恰克圖等の處に到らしむる目的は其敎端あり

一、恰克圖の磚茶輸入の減少を調査す

二、伊羅河の金額事業を擴張する事

三、伊羅古司卡鐵道の支線を建築して恰克圖に達せしむる事

其意思や測る可らさるを以て早く設備をなすへし

●河南省內の一揆　多分當局者か學堂創立の爲め陝西同樣賜稅を徵收せし者か衛輝府所近の農民共は各鳥堂の閉校を脅迫しおれる由にて時こそ來れりと言ひたけの會匪も又凡處逼す可きやはと全力を奮ひ必死に其の煽動手段を盡しつつあるか故中中に侮り難く猖獗愈よ增加の模樣を呈せりとぞ

●領事館の告示　近來日本小商人か往來又は溝渠の上に露店を出たし公道の妨害を爲す者尠からさる爲め過日支那官憲より充分に取締られたしと照會し來りたるにより昨日左の如き告示を發布したると同時に支那官憲には妨害者の場所を摘示し來る樣回答せりと

告示　居留民一般

當港在留本邦商人中路傍又は溝渠の上に商店を設け往來の妨害を爲す者少なからさる由清國官憲より通知ありたるに依り右等商店は此際至急取除け通行の妨害を爲さゝる樣注意すへし

●發生以來のペスト患者數　當營口市內に於ける發生以來のペスト患者數に就ては防疫會の發表する所と多少の差違ありて其數に上りたるか如く傳稱し居るものあれと當局者の取調結果に依れは先月二十二日得勝門外に二名、二十三日同所に一名、五臺子に一名、五臺子に一名、二十四日得勝門外に一名、二十五日得勝門內に三名、溝西炭に一名、二十八日得勝門外に一名、二十九日同所に一名、合計十二名にして內五名は避病院入院後死亡したるか他の七名は死後檢査の上發見したるものなりと云ふ

●日置默仙師の法話　師が渡清の主なる目的は我が戰死者を葬れる各地戰蹟の土砂を持ち歸り、師が計圖になれる護國塔下に埋めんと欲するものである師は今年還歷と聞くもその壯擧たる老躰に充實せる精力は猶ほ壯者を凌ぐの概がある、一昨夜營口俱樂部で有志の請に應じて一場の法話を試みられたので今茲に其概要を掲ぐる事としたが、余は聽みて恰かも玉を化して瓦となせしの感なき能はずである、讀者幸に諒せられよ

（一記者）

▲私が今晚法話をするに就て此に黑板がわつたならば明細に書いて御話しをするのであるか、それもないから唯私の口を以て成るべく皆さんの理解の出來る樣に御話をする事にしよう、御覽の通り私は佛弟子の一人であつて取りもなほさず佛の敎に盲從するものである、此外には何等の道も私にないのである、そこで此の佛と云ふ一字に就ては我々には一番大切なる事で亦飽迄も詮索せねばならない、先づ私か僧侶になつた因緣を御話すれば、私は伯耆國のもので十歲の時私の弟に別れた、恰度弟は四歲で死んだのである、元來私は生れ付き非常の腕白者て魚を捕へ、蟲を殺す事なぞあらゆる惡事をやつたのである、その弟の死に際會してからは全く殺生を廢めた、そして間もなく弟の爲めに所謂る受戒と云ふものを享けた、これか緣となつて私か十二歲の折頭を剃つて全くの佛弟子となつたのである、これか抑抑私の發心の始めである、爾來私か廿五歲の時住職となつてから六十一歲の今日にいたつたのである、そこで愚に御話した「佛の一字」と言ふ事に就て詮鑿して見ようならば是れは我我一番大切なる事である、元來この佛を信仰する、即ち佛に救はるゝと云ふ事はどう云ふ事であるかそれは南無阿彌陀佛を唱へる事であるか、又は南無妙法蓮華經と云ふ事である乎、又は南瀛大師遍照金剛と云ふ事である乎、或は又耶蘇の所謂る天に在す神と云ふ事である乎、イヤ〳〵決してそうではない、佛は我等の外に在すものではない、我等の裏にある我等の足下に在す、釋迦は言はれた「一切の心任る者は佛界に接すべし」と佛は我

明治四十年二月一日

在牛莊領事　瀨川淺之進

●滿洲の違憲問題起り議會の一波瀾（仝上）南滿鐵道違憲問題に關し木陸軍大將學習院長兼任仰せ付けらる

●守備隊の對抗演習　大石橋步兵第六十三聯隊は海城兵在野戰砲兵第二十聯隊と對抗演習を行ふ事となり步兵隊は牛家屯を基點として已に昨日北方に向つて進軍せり兩軍の衝突地は多分大石橋と海城との間なるへく兩

宮門抄

十四日

民政部　都察院　正黃旗值日

無引　見　肅王因伊子賞在乾清門行走謝　恩　慶王因伊子賞在御前行走謝　恩

太原城守尉載穆謝　恩　戴鴻慈等謝充講官　恩　吳士鑑假滿請　安　桂伯請假十日

召見軍機　徐中堂　毓朗　趙秉鈞

十五日

度支部　宗人府　正白旗值日

無引　見　孚琦假滿請　安　溥倫由東陵回京請　安　溥　謝充經筵講官　恩　載昌等謝充直閣事　恩　榮世。遂稍稍替矣。非不相因相襲。以公因侄以內用謝　恩　祥祺因伊子補主事謝　恩　林開古若、變本加厲之徒。乃日出其李寵慕謝署江西提學使恩　繼祿等盤查造辦處覆　命　內務府奏派管理懿牲所

派出奎俊

召見軍機　吐魯番回子郡王業明和卓

上諭恭鉞

七四日奉

上諭前因京師入冬以來雪澤稀少朕親詣

大高殿拈香並派員分詣　時應宮等處拈香虔申祈禱仰荷　慈佑迭沛祥霙朕心實深寅感允宜聰明皆不足以敵中國。是中國處於敬謹報謝用答　天庥朕于本月十七日親詣

大高殿拈香　時應宮仍派載灃昭顯廟仍派載洵　宣仁廟仍派載濤　凝和廟仍派溥倫同於是日分詣拈香恭行報謝恩仍冀頻果優於列國乎。抑中國之材智聰明。果與列國相若乎。不能也惟其不能優於列國。惟其不能與列國相若。斯不優者必求其所以優。不若者必求其所以若。而後不優　者於以優。而甘於不優。之無使才矣。

中外要聞

●安東華捕釀事　據安東縣館友電云東邊道張觀察所設巡警局召募巡捕二百餘名分紮各處以便實行警察其頭暈盜漢病態渤重吉人天相早筮勿藥矣

●女教習行文明結婚禮　聞繩匠胡同女學傳教習韓氏與外部劉繙譯結婚因崇奉美會教故於今日在匯文書　聽其酌量添置自司道以至布政使之店舖突有暴動毀拆店舖是日人稱行抵制是法律上所謂正當防倏也然華捕倏鳴警笛麕集者計四五十人日人僅六名耳於是華捕恃衆竟將日人押解巡警局或剝衣或持棍亂擊極爲暴虐甚怪中國地方官並未向日本領事禀告此事先是日本警察官偵知此事以爲國。天下亦無教育之不善。而不較中國爲先。於泰西政學採擇之也。亦較中國爲先。仿行之也。亦較中國裸体或擬以暫首或持棍亂擊極爲暴虐甚怪中國地方官並未向日本領事禀告此事先是日本警察官偵知此事無教育等。仍不足以立國。國也者教爲久。而又同洲同文。脣齒相倚。其關係實較他國爲親切。以過渡言。則日本實爲之先導。以情誼言。則日本嚴責華官將被險之日本人始得救護。充一班於數日前已傳補副取學員朱俊藻等十三名入堂肄業聞沈正卿擬舊原有局所聽督撫量爲裁併仍參照原以備候補司員學習部務起見故充何任督撫自爲酌定所辟秘書　參事　考　益友店設添牲畜稅卡凡有邊車及外處運來已宰等猪概以舉向該店估酌斤量按市價合錢徵稅市錢每百吊貳吊二百文再作銀洋上納凡民家豢自食之猪亦勒令自行書條注明姓氏居處幷猪之斤量輕重執向該卡納稅該卡每給稅券一枚俟此捐及民戶所豢顯與從前之告示大謬矣不知該說員果據何章程而如此重徵暴歛也願公布其章程以釋群疑不然則私囊太肥恐拖曳不動了

●馳車莽軋貧女　昨有阜有門內徐姓者購買東邨　楷一車御徐門　首卸而領其直錢驅車旋回而揚鞭狂馳時有徐之比鄰母女度日貧而無依俾女羅米而歸該車僕驂而且瞶而策驂飛奔適將該女逼於狹巷退避不迭徐在後大聲疾呼停驂僕乃若罔聞見竟將該女絆仆轅下輾輪直過軋壞女胯反脣腮部折落三齒即時昏暈頃而梁梃吮血號咷見者多慘旁有爲之不平竟將該僕捉捶數回幷羈留其車馬經甦調說該賣一車　楷之資恐不敷諸藥養之費可莽天之戒云

●擬設督撫衙門幕職　各省將軍督撫復編制局議外官改制電均誌前報茲將攷察政治館擬設督撫衙門幕職說帖照錄如左

謹案各直省覆電於原擬第一層辦法可者多而否者少其爲適當灼然無疑顧此次恭奉　諭旨派員隨同參議者除南北洋大臣躬與其事外計鄂粵陝川滇五省其決然議行者惟滇督一人其餘皆未認可若強以所難必至各督紛歧不一或慶而勿舉又使良法沮格不能行二者相權惟有寓第一層宗旨於幕職之中聽督撫自行徵辟既非窒礙庸無患其加多不論官階賢能皆有以自効查督撫向委文案不登奏報不分職權若因而明定責成俾知職守使內有一部外有一曹於事理最爲便利稽之史册則漢州郡之功曹別駕許自辟除鑒諸隣邦則日本各省之大臣官房多由奏任我　朝雍正間曾有令各省督撫保舉幕職之議咸同以後若左宗棠李鴻章郭嵩燾諸臣皆出身幕府得人爲多近年新政日繁文書加頴子弟曾在各省水師學堂學習者入密爲之分清職掌使有定程振刷精神之一道也今擬督撫衙門幕職每署設秘書官一人爲長餘皆分曹治事曰外務曹曰吏曹曰民政曹曰度支曹曰禮曹兼學曹曰軍曹曰法曹曰農工商曹曰郵傳曹每曹設參事官一人其事簡千人開縣署焚局所折學堂斫毀電綫或智嚇日人所雇之華人尤碍職業頗有激成排外之勢本月二十日華捕將日人之店舖突有暴動毀拆店舖是日人稱行抵制是法律上所謂正當防倏也然華捕倏鳴警笛麕集者計四五十人日人僅六名耳於是華捕恃衆竟將日人押解巡警局或剝衣或持棍亂擊極爲暴虐甚怪中國地方官並未向日本領事禀告此事先是日本警察官偵知此事無教育之所由成也。抑亦教育之善之所關係實較他國爲親切。以過渡言。則日本實爲之先導。以情誼言。則日本嚴責華官將被險之日本人始得救護。充一班於數日前已傳補副取學員朱俊藻等十三名入堂肄業聞沈正卿擬舊原有局所聽督撫量爲裁併仍參照顯與從前之告示大謬矣不知該說員果據何章程而如此重徵暴歛也願公布其章程以釋群疑不然則私囊太肥恐拖曳不動了

●法律學堂擴充　法律學堂現又擴充一班於數日前已傳補副取學員朱俊藻等十三名入堂肄業聞沈正卿擬舊原有局所聽督撫量爲裁併仍參照顯與從前之告示大謬矣不知該說員果據何章程而如此重徵暴歛也願公布其章程以釋群疑不然則私囊太肥恐拖曳不動了

●農工商部之官制　農工商部尚書　商擬在宣武門外買家胡同採擇基礎創辦江蘇學堂一所因經費不足禀振貝子日前將釐定本部職掌事宜及請江督蘇撫捐助學款頃聞已變端督司員各缺具摺入奏已於　初九日奉旨依議茲將內容亟錄如左

一分設四司曰農務司曰工務司曰商務司曰庶務司

一本部應設之各項局所學堂其目如左

一商標局　二商律館　三商報館　四公司註册局　五京師實業學堂　六京師藝徒學堂　七京師勸工陳列所　八京師農事試驗場（附設農務局）十一化分廠（現擬籌設）十二權衡局（現擬籌設）

一各司所設之職員如下　郎中十員外郎十六員主事十八員

一除以上所設之職員外特置專門之職員如下　一等藝師（秩正六品）二等藝師（秩正七品）二等藝士（秩正八品）二等藝士（秩正九品）

●上海起建海軍學堂　據滬上接得西報云陸軍部擬重建海軍責成總統南北洋海軍左宗棠李鴻章郭嵩燾諸臣皆出身幕府得人爲多近年新政日繁文書加頴子弟曾在各省水師學堂學習者入幕等官前共三十二家今歲計閏十一月卯概無加色至來年三月一卯方行加色今則銀錢奇緊前月公會禀請道憲准爲示諭凡屆臘月卯期爐銀概以小銀洋八十元抵償屆卯爐銀壹錠重五十三兩五錢於是衆油坊等急於需款買載而日遣人向諸銀爐追逋奈銀爐等所出諸債多係雜貨商而該商出債又係北城諸商銀根不敷彼此均受其影響故銀爐日被油行坐催實不勝其曉曉云

●西滷鐵路畝捐激變　滬上接得西安電據云陝西華陰縣民因造西滷鐵路開辦畝捐覓致激變初六日聚衆數

雜文

●試秀才策文五道

袁簡齋集有試秀才策文五道其說甚精有仿之者曰

哲學家謂人身失其運動則日就澌滅凍餒近世之所謂新少年其亦有此思想乎謹訂章程列後

一本所名爲七日速成志士研究所務求快當簡易以副普通志士速於求效之心

一本所設在新世界志士林門牌第九號

一本所教員俱聘請六個月金漆招牌三四個月之師範生按科教授以省薪水而收速效

一凡欲入本所者須服文明公裝以副秃頭志士之徽號長衫拖辮者概不收納

一本所專收攬二十五歲以下之新少年舉動囂張行止浮躁者方爲合格

一本所襲取歐化主義凡入本所者衣服裝飾日用飲食週旋本動須摹倣西式以驚駭俗人耳目

教授時間

(第一日)教以普通新名詞及西人餘應酬習尚以適時趨

(第二日)教以近世出版之新書目務令熟讀使信口道出不至遺忘

(第三日)教以西文字母二十六個及西字之數目號碼其餘高深不必令學

(第四日)教以算學至加減乘分爲止

(第五日)教以最通行之西話數十句使應酬上有所把握

(第六日)教以演說秘訣使赴會時得以抒展口角

(第六日)教以週旋應酬各種社會秘訣交通報界學界政界手段以爲謀生之階

(第八日)舉行畢業禮各給以綠地金字證書使終身有所倚賴

發起人闕黨童子啓

笑林

●尚不如馬

二十世紀劇烈爭戰時代東亞風雲瞬息萬變邇者歐風美雨日咄咄逼人來近已年將知命固猶碌碌無奇惟其頭矣優勝劣敗爲大演不易之公例使就斐極少所綰之辮戟如兒童人以是皆呼爲諸小辮子某亦應之不宜自矜其異每謂大清相法小辮子貴不可言照欲求嘅飯之所而不可得故來年各省找班貨變副將可立致也一日乘馬出

士夫惕然於守舊之非計咸翻然改圖外拜客客固肴諧見其馬尾挽結亦如爭奔走於志士界中以爲藏拙之所誠辮子而較某尤短因謔之曰君平日謂以時勢所催不容稍緩風潮所鼓勢有必然也爰集同人創設速成志士研究所七天卒業無阻時間畢世爲謀不虞凍餒近世之所謂新少年其亦有此思想乎謹訂章程列後

一本所名爲七日速成志士研究所務求快當簡易以副普通志士速於求效之心

一本所設在新世界志士林門牌第九號

一本所教員俱聘請六個月金漆招牌三四個月之師範生按科教授以省薪水而收速效

一凡欲入本所者須服文明公裝以副秃頭志士之徽號長衫拖辮者概不收納

一本所專收攬二十五歲以下之新少年舉動囂張行止浮躁者方爲合格

一本所襲取歐化主義凡入本所者衣服裝飾日用飲食週旋本動須摹倣西式以驚駭俗人耳目

教授時間

(第一日)教以普通新名詞及西人餘應酬習尚以適時趨

(第二日)教以近世出版之新書目務令熟讀使信口道出不至遺忘

(第三日)教以西文字母二十六個及西字之數目號碼其餘高深不必令學

(第四日)教以算學至加減乘分爲止

(第五日)教以最通行之西話數十句使應酬上有所把握

(第六日)教以演說秘訣使赴會時得以抒展口角

(第六日)教以週旋應酬各種社會秘訣交通報界學界政界手段以爲謀生之階

(第八日)舉行畢業禮各給以綠地金字證書使終身有所倚賴

發起人闕黨童子啓

笑林

●尚不如馬

二十世紀劇烈爭戰時代東亞風雲瞬息萬變邇者歐風美雨日咄咄逼人來近已年將知命固猶碌碌無奇惟其頭矣優勝劣敗爲大演不易之公例使就斐極少所綰之辮戟如兒童人以是皆呼爲諸小辮子某亦應之不宜自矜其異每謂大清相法小辮子貴不可言照欲求嘅飯之所而不可得故來年各省找班貨變副將可立致也一日乘馬出

學生募集

二月一日より左の通り増加す
畫學部(自午後二時至午後四時)
少年婦人(自午後三時至午後四時)
▲夜學部に英語科を加ふ
英語教師　早稲田大學出身
教師　北京人　石川東洲
賀昌齡
申込　永樂町　大阪屋本店
元神嶋街　森屋洋行
教科書類は大坂屋にて問合せられたし

今般協議の上診察料、藥價、入院料等一定致し左の通相定む

診察料　一病期間　銀五拾錢
往診料　初診　同貳圓
藥價　內用藥一日分　同貳拾錢
入院料　一日同壹圓五十錢以上

右廣告仕候也

明治四十年一月二十七日

博愛醫院
日本醫院
東洋醫院
松岡病院
營口同仁醫院
酒井醫院
森病院

募集

印刷業に經驗ある人用
十二三才以上の日本男子
數名相當手當を給す
十三四才以上の日本女子にして假名を解するもの
を必要とす
大竹達之助ハ五圓ノ誤リニ付訂正ス

見習生募集

女工至急募集す
希望者は本社事務所へ直接來談あれ
新市街北本街
滿洲日報社

殉難志士建碑義捐金廣告中訂正

橫川君外十名

一月二十四日所載一圓ハ三圓營口　大竹達之助ハ五圓ノ誤リニ付訂正ス

一般患者ノ診療ニ應ズ

任診入院臨時
院長醫學士　松井甚四郎
營口豐濟門街元營口醫院跡
營口同仁醫院
(電話七八)

西洋家具

營口永世街

蜜蜂牌五

帶嘴

此香煙是特爲華人揀選且齊煙葉之頂上等煙料唯一之佳品也

經售大德元
加藤洋行
裕和盛
北泉
南店
處

廣告

玻璃器洋陶及雜貨商
溝畑洋行
鐵嶺火神廟西溝

戴廷揚

世傳外科
崇治跌打損傷精治一切雜症黃瘡無名腫毒包治楊梅大瘡
寓所西沒溝營老爺廟東邊潮溝南沿本宅第四段門牌二十六號

孟家屯花の家旅館開業廣告

花の家の位置は停車場の前濱車の乘降に便にして假令は日本風農敷の築清潔花の家の客室は一室毎に露西亞式ストーブの設備花の家の特色は清潔なる浴室の準備

御料理並に出仕し

海魚すき　よせ鍋
精肉かしわ　すき
鐵嶺西門外　日鐵

會席

蠣めし

日本酒

奉天ビンケン遼陽沈上出張所

●森病院

電話一五五
自午前八時至正午十二時
自午後三時至午後五時

一診察一往診

患者の入院治療を諾す
貧困患者の施療は正午十一時より二時迄
妊婦の入院(産婆赤垣はる子)を諾す

長醫學得業士　矯
副院長醫學得業士　長森
長船郁太郎
營口永世街　森病院

海天春

番菜館

本館今由廣東請到庖師專辦英法大菜味美價廉各樣西式點心無不精緻以及安寓各國官商院落寬敞房舍潔淨男女各屋均照西式現定於十月初八日開市仰冀華洋官商光顧晏會便酌各隨尊意特此廣告

海天春主人謹啓

本店　設在奉天小西關小什字街北口內路西門面今般築館以清潔閑靜爲係故冬期の設備を完全にし本月廿三日より料理店開業仕候就ては原料を精選し且廉價を以て御命に應し御取扱ひ萬端誠實一致すべく尚又館內は手爐にて毫も御不便の事無之候注意仕り候間奮ふて御引立の程願上候

奉天小西關小什字街(北へ約一丁入る)

明治三十九年十一月　海天春主人敬白

高等雜貨商

高等麥酒　スペシヤルライト
滿洲一手販賣

一、各種洋酒
一、紀州京都綿ネール特約販賣
一、各種委托販賣業
一、倉庫業
一、極上紀州本塲蜜柑

營口元神廟街(電五)
關東公司本店
奉天四平街(電十三)
關東洋行
分店
全小西門街
同出張所
大阪江戶堀

仁裕號

係裝運各幫火輪船生意兼賣各幫洋什貨糧石等此佳
營口西大廟街北聲乙　十三號

東盛和

本行在營口創設二十餘年專辦出口餅油豆粕等土貨進口棉絲布疋火柴洋麵糖煤雜貨發行並滙兌銀錢兼代客經理買賣租船裝連事宜營口廣東南處自建碼頭能泊輪船二艘棧房地方寬大凡泊輪船裝卸貨物極爲便利貯油餅豆米麥更爲合宜兼置有輪船一艘名域丸能載重二萬担如有欲租船運貨及在棧迴物水腳等件從廉貴客賜顧計到小號面議是有

營口西大廟街北聲乙　十三號

貨一應俱全

本行在鐵嶺開設發售綿布綿線綿毛布各色東洋被面帽新到諸到號購買可也

鐵嶺火神廟街
穗積洋行
車站外
同支店
寬城子北門內大
同支店

室内の裝飾器具一切内地より到着の上已に飾附を終り候に付倍奮の御引立を奉希候
鐵嶺高等御旅館　高砂ホテル
東青堀子新橋一
淡谷木局
電話二百七十九番

講談

復讐美談

譽れの襷

（第百三席）

安「別に何も持つには及はぬ、茲に錵骨の扇子かある、此扇子て澤山だ　○「ナニ然んなもので對手をするつて、お前さんは人を馬鹿にする、私を小兒だと思つてそんな物を持ち、跡て頭か痛いの腰か痛いのと溢しなさらないか宜い、擂か出來ても構ひません、頭を殿るから宜いかい」と始めは遠慮して居たか、段々調もぞんざいになつて來る　安「遠慮に及ばんからサア十分に打込んて來い、何處からても打てもいい　○「打たねへてとうするものか人を馬鹿にした武士だ、何にも出來ねへと思つて居やかる、人間たと思つた日にや打悪い矢張り吊してある棒たと思つて、打叩くから然う思つてろ」安兵衛驚いた、棒だと思つて打たれて堪るものか　安「サア來い　○「宜いか武士、覺悟をしなさい」と打込んて參りましたる棒を必得たりとヒラリ體を轉した、空を打ちましたからヨロヨロと前へよろめく所を安兵衛持て居る鐵扇で利腕をヘシと打つた、ホロリ棒を取落して之はといつて拾うとする所をを又頭を一つ扇子て劈く打つた　安「とう〳〵小僧、之なら扇子て澤山たらう、之か刀なれは貴樣の頭は二つになつて終ふに亡なりましたか、親の氣性を承繼きましたものと見ねて誠に勝氣てございます、まア旦那樣此方へお登り遊はせ」と登せて安兵衛座敷へ通りまして、始めて此酒屋家内のもとは些と工合か違ふ　安「棒と一緒になるものか、併し餘程劍術か嗜と見える、良い師に就て學んたら天晴の者になるたらう、私も急かん旅なれは當地に留まつて教へてやつても宜いか、何分忙かしい身体てあつて然うも參らんけれとも、是非學ひたいと思ふからは私の知己の武藝先生の所へ連れて行て頼んてやらう」といふのは上州眞庭の樋口十郎左衛門の所へ連て行て、内弟子に世話をしてやらうと云ふ安兵衛の考へ、阿母か其の傍から　母「旦那樣とうも有難う存します、私しも是れ一人を樂しみに此うやつて毎日稼いて居りますが、何分にもたいにも、斯樣な鄙士のことて思ふやうに是れか劍術か好きて、良い師匠を取てやり

か身の上話をいたしまする、抑も此酒屋の女房といふは名をおわかと申し親父を茂右衛門と云つて元名主を勤め、相當の身代も こさいました、おわかが丁度十七の時、勤潟の港祭りと云ふのを見物に參りましたが之か丁度七月の七日て七夕祭りとも申し、大きな万燈を擔ぎ出して、イヤとうも賑やかの何のといつて、近郷近在から泊り掛て、見物に出掛ける、されは當日新潟の宿屋の繁昌は一通りてない、扨茂右衛門も娘のおわかを連れて見物に參り、古町通り二ノ丁の山田屋文六と云ふ茶屋旅籠屋へ泊りました、所かどうも書入れの日てございますから客か立込み、家内の者は何れも眞黒になつて立働いて居ります、在方から參る　安「遠慮に及ばんからサア十分に打込んて來い、何處からても打てもいい　○「打たねへてとうするものか人を馬鹿にした武士だ、何にも出來ねへと思つて居やかる、人間たと思つた日にや打悪い矢張り吊してある棒たと思つて、打叩くから然う思つてろ」安兵衛驚いた、棒だと思つて打たれて堪るものか　安「サア來い　○「宜いか武士、覺悟をしなさい」と打込んて參りましたる棒を必得たりとヒラリ體を轉した、空を打ちましたからヨロヨロと前へよろめく所を安兵衛持て居る鐵扇で利腕をヘシと打つた、ホロリ棒を取落して之はといつて拾うとする所をを又頭を一つ扇子て劈く打つた　安「とう〳〵小僧、之なら扇子て澤山たらう、之か刀なれは貴樣の頭は二つになつて終ふに亡なりましたか、親の氣性を承繼きましたものと見ねて誠に勝氣てございます、まア旦那樣此方へお登り遊はせ」と登せて安兵衛座敷へ通りまして、始めて此酒屋家内の樋口十郎左衛門の所へ連て行て、内弟子に世話をしてやらうと云ふ安兵衛の考へ、阿母か其の傍から　母「旦那樣とうも有難う存します、私しも是れ一人を樂しみに此うやつて毎日稼いて居りますが、何分にもたいにも、斯樣な鄙士のことて思ふやうに是れか劍術か好きて、良い師匠を取てやりのとは些と工合か違ふ　安「棒と一緒になるものか、併し餘程劍術か嗜と見える、良い師に就て學んたら天晴の者になるたらう、私も急かん旅なれは當地に留まつて教へてやつても宜いか、何分忙かしい身体てあつて然うも參らんけれとも、是非學ひたいと思ふからは私の知己の武藝先生の所へ連れて行て頼んてやらう」といふのは上州眞庭の樋口十郎左衛門の所へ連て行て、内弟子に世話をしてやらうと云ふ安兵衛の考へ、阿母か其の傍から　母「旦那樣とうも有難う存します、私しも是れ一人を樂しみに此うやつて毎日稼いて居りますが、何分にもたいにも、斯樣な鄙士のことて思ふやうに是れか劍術か好きて、良い師匠を取てやりの女房といふは名をおわかと申し親父を茂右衛門と云つて元名主を勤め、相當の身代も こさいました、おわかが丁度十七の時、勤潟の港祭りと云ふのを見物に參りましたが之か丁度七月の七日て七夕祭りとも申し、大きな万燈を擔ぎ出して、イヤとうも賑やかの何のといつて、近郷近在から泊り掛て、見物に出掛ける、されは當日新潟の宿屋の繁昌は一通りてない、扨茂右衛門も娘のおわかを連れて見物に參り、古町通り二ノ丁の山田屋文六と云ふ茶屋旅籠屋へ泊りました、所かどうも書入れの日てございますから客か立込み、家内の者は何れも眞黒になつて立働いて居ります、在方から參る　安「遠慮に及ばんからサア十分に打込んて來い、何處からても打てもいい　○「打たねへてとうするものか人を馬鹿にした武士だ、何にも出來ねへと思つて居やかる、人間たと思つた日にや打悪い矢張り吊してある棒たと思つて、打叩くから然う思つてろ」安兵衛驚いた、棒だと思つて打たれて堪るものか　安「サア來い　○「宜いか武士、覺悟をしなさい」と打込んて參りましたる棒を必得たりとヒラリ體を轉した、空を打ちましたからヨロヨロと前へよろめく所を安兵衛持て居る鐵扇で利腕をヘシと打つた、ホロリ棒を取落して之はといつて拾うとする所をを又頭を一つ扇子て劈く打つた　安「とう〳〵小僧、之なら扇子て澤山たらう、之か刀なれは貴樣の頭は二つになつて終ふに亡なりましたか、親の氣性を承繼きましたものと見ねて誠に勝氣てございます、まア旦那樣此方へお登り遊はせ」と登せて安兵衛座敷へ通りまして、始めて此酒屋家内の樋口十郎左衛門の所へ連て行て、内弟子に世話をしてやらうと云ふ安兵衛の考へ、阿母か其の傍から　母「旦那樣とうも有難う存します、私しも是れ一人を樂しみに此うやつて毎日稼いて居りますが、何分にもたいにも、斯樣な鄙士のことて思ふやうに是れか劍術か好きて、良い師匠を取てやりのとは些と工合か違ふ　安「棒と一緒になるものか、併し餘程劍術か嗜と見える、良い師に就て學んたら天晴の者になるたらう、私も急かん旅なれは當地に留まつて教へてやつても宜いか、何分忙かしい身体てあつて然うも參らんけれとも、是非學ひたいと思ふからは私の知己の武藝先生の所へ連れて行て頼んてやらう」といふのは上州眞庭の樋口十郎左衛門の所へ連て行て、内弟子に世話をしてやらうと云ふ安兵衛の考へ、阿母か其の傍から　母「旦那樣とうも有難う存します、私しも是れ一人を樂しみに此うやつて毎日稼いて居りますが、何分にもたいにも、斯樣な鄙士のことて思ふやうに是れか劍術か好きて、良い師匠を取てやり

●凍傷と原因と豫防

▲凍傷の出來る理由　之は多期非常の寒さに觸れると其部分の温度か一時的に失なつて了つて血に障害を起す即ち血液の循環に障害を來すと其處たけ血か濁り勝になつて次に營養障害を來し鬱結して局部の皮膚か紫紅色に腫上り强い痒みを持つは是か普通のシモヤケて一番輕いのてある併し打捨つて置くと潰瘍に陷る

▲輕症と重症　火傷は熱によつて生し凍傷は寒さによつて來るので其結果は略似て居る即ち火傷と同しく凍傷にも第一第二第三度の度合かある、第一度は前記の輕症て第二度は局部に水泡と云つて膨れて水の出るのかある、皮膚は深青紅色を呈し容易に鑒らなくて惡くすると侵蝕性の壞疽（其部分の腐蝕すること）を起し火傷よりも始末の惡いものてある、第三度は重症て初めから暗赤色を呈し壞疽の狀態か現はれ知覺は脫失して或は肉を除去するか切斷するか是等の外科的手術を要する場合もある日清日露兩役に我勇敢なる軍人中凍傷の爲めに四肢を失つたものさへあつたのは世の知る所てあり、又は何んとも云はれぬ善い匂ひをさせたりする動物かある、マサカそれに倣つた奇麗な筒の水があつたから二口三口呑んて何等の救助とも爲し得ずとも

●聲ト匂ひ　動物學と云ふ書物を讀むと牡牛牝牛を呼ぶ爲めに非常に美しい聲て鳴いたり、又は何んとも云はれぬ善い匂ひをさせたりする動物かある、マサカそれに倣つた譯けてもあるまいか奇妙にも此動物的の聲と匂ひてお客を釣んと企てをる藝妓かあるそれは新市街の日本館に福子といふ藝妓て藝の上ては一通り何んても出來ぬ事はないか面か少し二の町なのてアマリ好い客もなけれと人間は短所はかりは無く此妓天性の美聲を有ち四疊半の對向ひ爪彈かなんかて唄ひ出すとソレこそ梁の塵も天手古舞をする・妙音なれは、聲に惚れ込んて最負するものも無きにあらす左れは福子は熟熟謂へらく既に我に此伽陵頻加の聲あり、登異香の馥郁たるものなからんやと、飛んた羽衣の天人を氣取り、ソレにしては何んても高い香水ても塗り附け聲と匂ひてお客をとらかさんと、それより後は東京パツクの女學生のやうに、テコテコと大廂に結ひ早速加藤洋行へ行きて第一等の香水の直段を問へは小さな一オンス瓶か五圓五十錢と聞て内心少々びつくりせしか、ナニ此一滴か鼻下長の二三人つつも引付けられゝは結局大きに安い哉だと、直に購いて立歸り彼方の手巾にもブンブン此方の糸入にもブンブン

●支那服の日本貴笑婦　西營口の某日本料理店は七八人の貴笑婦を置き支那人專門に營業しるか其貴笑婦により何れも支那服を着せ髮の粧飾其他一切を支那風となし甚だしきは耳に耳環を附たるさへあり一見支那婦人と區別し難けれは其筋の手も此所までは及はす盛んに風紀を壞亂しつゝありとは苦苦しき限りなり又右貴笑婦等若し日本人の客の行く時は流石に良心に恥おてや蒼皇として通れ隱るといふ

●貴笑婦の末路　哀れといへは哀れ氣の毒なれも女にあると思へば氣の毒なれも女にあり、を賣り物にして自墮落に身を持ち崩した揚句は大抵かゝる境遇に陷いるか常なるへし爰に天草五領村生れの池崎コノ（二十八）といふ貴笑婦は肩揚げの取れて間もない頃から單の爲めに日本婦人たるを以て資本金の出所もてきて月奉天の日本領事館へ引渡さるゝ事となりしか此時コノは支那服一枚を着せしのみ小使錢さえなき始末なるのみ病に罹り半死半生の體にて居りしか如何なる事情か又又林と分一支那人某の女房となり支那語の話せるを幸ひ支那婦人に裝ひ吉林まて入り込みしか途に露顯して遂に捕はれ流れ流れて日露戰爭の頃には安東縣に至り仝地にて豫ねて哈爾賓て知り合ひとなりたる林某といふ男と夫婦の如き關係を生し一時は奉天の小西門外に吉田屋といふ旅館兼料理店を開き酌婦の四五人も使ひ

汽船大連出帆

摩耶山丸　四日門司、神戸、大阪行
御代丸　五日門司横濱行
中國丸　十五日門司長崎鹿兒島行

松茂洋行
電話(五二、五七)

大連監部通二丁目
松菱洋行出張所
御乘船切符は御便宜の爲め當營口に於て賣捌候

和洋、雜貨、支那人
商福島洋行
遼陽西門外

會席御料理
花月
各席十円均一
角力御料理

痔核
五個年の經驗に由り今回手術を要せず苦痛なく入院の必要なく唯一二回の注射にて速に全治するを保證す
梅毒　婦人科
外科　胃腸病
專門日本醫院
入院隨意(電　二二七)

會席御料理
日本館
御宴會等には特に勉强可仕候
幷に料理仕出いたし申候
營口新市街花園町
(電話百三十)
各位樣

奉天小西關大街路北
奉天兵站部指定
旅館　茂林館
(電話二十五番)

會席御料理
鐵嶺彌生館

本店　鐵嶺
二階座敷は鉄岑唯一温泉は清潔にして本店の特色
支廳の室内は評判の美麗御料理待遇は比類なき勉强
支店　公主嶺
くつ輪

廣告
舶來諸雜貨　室内裝飾品
防寒具一式　西洋家具
文房具　旅行用具一切
東京下駄
防長上白米　上等木炭(日向)
清酒稻正宗　京印醬油
木材(松板、角材)大見切
右誠實を主とし精々勉强仕候に付倍舊御懇命願上候　敬白
新市街　**盛進岡行**
(電話二一〇番)

三井物產合名會社牛莊支店
營口重盛街第十號
(電話六十六番)
(電報九十一番)
滿洲各地出張所々在地
大連、安東縣、奉天、鐵嶺、寬城子、
○營業科目
一販賣部　大豆、豆粕、豆油、棉糸布、木材、銅、石炭、木炭、セメント、機械、寸、麥粉、砂糖海藻銑器諸器械各種金物其他內外國製品及原料販賣
一倉庫部　貨物保管(背堆子河岸電話番口二八番)
一船舶部　社內並社外船代理店
一保險部　明治火災東京海上日本火災
保險會社代理店

本店　東京市日本橋區駿河町壹番地
支店及出張所々在地
倫敦　漢堡、紐育、桑港、孟買、爪哇、新嘉坡、甲谷仙、馬尼剌、香港、厦門、臺北、臺南、廣東、上海、漢口、芝罘、天津、京城、仁川及內地各要所

營口特約大販賣
永世街第二十八番
大原洋行
(電話二二二)
新市街花園町
大原洋行支店

新荷着
白米、絞油、味噌、木炭、酢、醬油、乾海苔、罐詰、乾物、東京タクワン、蜂蜜、葡萄酒、新粕漬大根

澤泡
商標　有權
本政
明治一等賞
(澤泡の説明書)

滿蒙境上唯一樂園
五龍背溫泉
安奉鐵道五龍背驛にて下車　安東縣より一時間餘賃金四十錢
溫泉場は五龍背驛の南二丁
靈泉如玉　效能顯著
眺望絶佳
(當溫泉に御用の方は安東縣天坐公司(電話六一番)へ御申越被下度候)

廣告
一木材　白米
一石炭　木炭
一生石灰　無煙炭
喜久洋行
營口世水街
(電話(一五二)
(電話(二二四)

廣告
木材　石炭
薪炭　白米　大販賣
一委托販賣商
營口永世街
日陽商會
電話　三一九

旅館
永世街二十四番
大和館
店主　前田九一郎

料理
今回改號御披露として大勉强仕候間倍舊御愛顧の程奉希候　敬白
營口永世街
寶圓洋行
電話　三二一番

料理
門の
彌生
店主杉井幸吉

○銃砲火藥散彈
○建築用金物
○鐵工鍛工具
○土木用工具
○人工道具
○石工煉瓦工具
○亞鉛板洋釘
○コールタ
○カーネションクリーム
○ストーブ○金庫
○一分間湯沸器

料理
營口豐濟門街第四〇一號
(電話五九)
高貸席等御待合
將棋盤あり碁盤あり小仕切の部屋お望みに應ず
遊樂亭
主稻葉いさ子

廣告
木材　石炭
薪炭　白米　大販賣
一委托販賣商
營口永世街
日陽商會
電話　三一九

旅館
永世街二十四番
大和館
店主　前田九一郎

料理
營口豐濟門街第四〇一號
(電話五九)
高貸席等御待合
將棋盤あり碁盤あり小仕切の部屋お望みに應ず
遊樂亭
主稻葉いさ子

西洋家具製造販賣所
營口新市街遼川商會院內(電話八九番)
石本組
(電話八九)
今般西洋家具一式製造仕大方の御需に應可申候尙御好に應し如何樣にも製作可仕候間多少に不拘御注文被成下度奉願上候追て御用の節は電話を以て御通知被下候はゞ何時にても御伺ひ可申上候

材木兼價各種販賣
營口新市街
鹽川商會
(電話八九)

旅館
親切可嘆
鐵嶺西門外大通り
鐵嶺ホテル
館主　中野忠治

料理
營口元寶廟街
一力
店主　堀万助

旅館
營口元神廟街(電話一七八)
東京樓
館主　熊田兼次郎

臺灣彩票
見よ!!!富
第三次賣出し
開票二月廿八日
●彩票壹本賣價金六圓
●仝小口金六十五錢
●送料ハ書留郵稅十錢ヲ要ス
大連、湖北、川漢彩票代賣所
營口西北街
裕和盛支店
(電話八壹)
奉天小西關外
武信號

料理
營口新市街青柳町
瓢亭
店主　長谷川金次郎

營口新市街
飯塚工程局
電話六五
仝石炭置場
電話一二八

奉天小西門外
仝奉天出張所

大連伊勢町
仝大連出張所

天津
仝天津出張所

土木、建築、測量、圖案
今般新ニ熟練ノ技師數名ヲ招聘シ測量設計圖案ノ一般ノ高需ニ應ジ可申候

石炭各種廉價販賣

營口新市街
販賣品目
清酒　菊正宗　菊正宗
札幌麥酒　茶菓子
和洋紙類　蜂印葡萄酒
呉服雜貨　孔雀印平野水
洋服附屬品　堀井膽寫版
洋菓子　洋家具
洋雜貨　森永
蓄音器　蓄音物
時計　名古屋時計會社
漆器　松田式繊機
硝子物　荒物
陶器　山葉製樂器
玩具　計製
風鈴　時計
鞄類　金物
洋酒類　埃及及葉巻煙
和洋鐘詰　其他色色

加藤洋行

和洋雜貨發賣
火災の爲め以來休業修理中の處漸く整頓今回開店仕間各位倍舊の御愛顧の程奉希上候也
商英　日營貿易商會

洋鐵鋼
安東縣市場通二丁目
合資會社
秋田商會支店
其他諸機械の製作修繕

安東縣東大街
合資會社
秋田商會支店
麥粉、白糖、白米、玻璃板、亞鉛板、鐵線、洋釘類、建築土工用具及船具類

歐米諸雜貨
毛布羊袋毛皮帽子類滋鉄鍋盆類洋燈双眼鏡文房具雜
米國式ストーブ、蓄音機
以太利製香水石鹸刷子齒磨粉
獨乙製木工用鉄器圓木
椅子及上等葉巻紙巻煙草
各國名酒鑵詰菓子類
米國製上等くム

自轉車
英國式快速車各種燈空氣入外附屬品一切
一弊行發賣品は凡て歐米各國著名の製造會社と特約面輸仕候間品質優等價格低廉なり
一香港上海天津等に於て十數年來各位の信用を受け益〻繁榮に赴けり
一滿洲に於ける顧客の御便利を相圖り今般支店を奉天に開設せり
奉天小北門內大街
克隆元記